

## スモモミハバチ

### ○被害と発生生態

ハバチ科に属する小型のハチで、近年、国内と朝鮮半島で発生が報告されたことから、中国大陸からの侵入害虫と考えられている。成虫は年1化性で、スモモの開花期に羽化し、萼に傷をつけて表皮下に1個または2個産卵する。幼虫は萼落ち期より前に孵化して幼果に食入し、果実の中心部に潜り込んで胚を食害する。幼虫は1個の果実を内部から食害して脱皮を繰り返し、虫糞は細粒状となって内部に蓄積される。被害果は直径1cm程度で肥大を停止し、大部分は6月上旬までに落下するが、枯れて黒色になり、翌年まで枝に残ることもある。無防除での被害果率は高く、収穫皆無となることも多い。老熟した幼虫は主に5月上旬に果実に直径2mm程度の穴をあけて脱出し、土中に潜って土まゆを形成する。蛹化時期は12月頃である。

成虫の体長は約5~6mmで、体色は雌雄とも黒色、翅は暗色である。触角および脚は、雌は暗褐色~黒色で、雄は黄褐色である。幼虫の体色は白色~淡黄色で、頭部は淡黄色である。幼虫は5齢を経過し、老齢幼虫の体長は約10mmである。

### ○防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

白色粘着トラップに誘殺される。

#### (イ) 薬剤防除

スモモミハバチに適用のある薬剤(モスピラン顆粒水溶剤)を満開期~落弁期に散布する。



スモモ幼果の被害  
白矢印は侵入孔、黒矢印は脱出孔



スモモミハバチ成虫



被害果内の老齢幼虫



前年の被害果(左)と土まゆ(右)